

令和7年度 学校経営報告

東京都立淵江高等学校長

観点	教育活動の目標と方策	成果と課題
学習指導	【目標】 ○ 基礎学力の定着と主体的、意欲的な学習態度の育成	
	【方策】	
	① 教員のデジタルスキルの向上とスマートスクール端末の活用	相互授業参観期間にデジタルスキルのある教員の授業参観する工夫し意識を高めた。 Webテストや課題の配信など若手教員中心に端末の活用は向上している。
	② 「総合的な探究の時間」の指導体制の強化による探究活動の充実	TIPS-TYPE2年間プログラムにより、1学年で、探究の仕方を学び、2,3学年で各生徒が各々自分のテーマを決めて探究活動を行うという下地を作ることができた。
	③ 観点別評価の確実な実施	リアテンド活用が90%以上になった。それに伴って定期考査で観点別問題を設定し成果を測ることができた。
	④ 土曜日や放課後を活用した補習や講習による学習支援及び学習機会の確保	土曜講習は5回実施。放課後補習も実施し、一般受験対応を行った。
⑤ 長期休業中における講習計画の充実	受験対策の講習と基礎学力定着の講習が実施できた。開講する教科に偏りがあるので、次年度は講習を整理して偏りを改善が必要。	
健康づくり 生活指導	【目標】 ○ 規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立 生徒の心身の健康を保持増進	
	【方策】	
	① 全教職員の共通理解による遅刻・頭髮・服装指導の実施及び自主的な防犯意識の醸成指導	今年度、職員会議前に研修会を開催。身だしなみ指導について共通理解を図ることができた。遅刻については、朝学習を導入することで、減らすことができた。また、ロッカー施錠については定期的に指導し、防犯意識を高めた。
	② 携帯・スマホの使用マナーの徹底及びセーフティ教室によるネットアクセス等の危険防止教育の推進	セーフティ教室はじめ、あらゆる機会に啓発を行った。継続して教育が必要である。
	③ 交通安全教育、交通法規遵守の徹底、HR等を活用した安全教育の浸透	竹の塚警察を招いての交通安全指導を行ったが、自転車のマナーやヘルメット着用について不十分である。引き続き指導を継続していく。
④ 学校行事、部活動等を活用した基礎体力の向上	三人行事を行い、文化祭においては招待試合を行うことができた。来年度は、多くの人々に来校してもらえるようにしていく。	

	⑤ 自立支援に関する情報共有を行い、必要に応じた通級指導等の実施（特別支援教育等の推進等）	教育相談委員会を開き、SCや専門医からの指導や助言を受けることができた。生徒への指導に生かすことができた。
	⑥ SCやYSWと連携した相談活動の充実と組織的な対応	SCやYSWとの日々の情報共有から、行政との連携や社会資源の活用ができた。次年度も相談体制の構築を図り、教育相談や自立支援を充実させる。
	⑦ すべての教育活動を通じた自他を尊重する態度の育成	あらゆる機会をとらえて教職員及び生徒の自他を尊重する意識の育成を図った。
	⑧ 生命の大切さを伝える指導、カウンセリングの充実によるいじめ、自殺の未然防止指導の実践	SC全員面接を4月中に実施し、フォローアップ面接も行い、情報共有した。学期に1回のいじめの授業、年2回の命の授業を行った。
	⑨ アプリやデジタル機器等を活用した日々の生徒の健康管理と健康に関する情報発信	コンディションレポートを活用し、生徒の変化を見逃さず、対応できた。今後も継続していく。
	⑩ 校舎内外、HR教室、各教室等の清掃および整理整頓の徹底	美化委員会を中心に校内清掃に努めることができた。
進路指導	【目標】 ○生徒自らが将来の進路を真剣に考える姿勢の醸成及び進路の第1志望の実現	
	【方策】	
	① 進路指導部と学年の連携による進路ガイダンスの充実	進路指導部を中心に進路行事を充実させ、学年とともに系統的な進路指導ができた。ガイダンスは37回実施した。
	② 生徒の具体的目標に合致した各種講習や模擬試験の実施	長期休業中の受験対策の講習を実施、模試も受験対策用の模試を導入した。英検・数検・漢検の校内受験を開催し英語の外部検定受験を全学年実施した。また、一人3検定顕彰制度を導入し、資格検定取得に力を入れた。
	③ 外部機関や卒業生などを活用した講演会等を実施するなどのキャリア教育の工夫	外部機関を活用した進路ガイダンスや卒業生講話などを行い、生徒の進路に対する意識を向上できた。
④ 進路実現に向けた三者面談などの実施	早い段階からの進路を意識させるために、2年生は9月までに3者面談を実施することができた。生徒と保護者の進路に関する意識を担任が把握できた。次年度も早い時期からの三者面談を実施し、生徒の進路に対する意識を醸成する。	
特別活動	【目標】 学校行事、部活動などによる生徒の主体性や自信の獲得 多様性を理解するために地域交流や国際交流やボランティア活動の継続と充実	
	【方策】	
	① 各行事における実行委員の計画的な育成	体育祭では体育祭実行委員、文化祭では文化祭実行委員、合唱祭では合唱祭実行委員が中心となり、各行事を実施できた。各委員の達成感は大きかった。
	② 新型コロナウイルス感染症5類移行後の各行事の充実	体育祭では、学年別の種目や部活動対抗リレーを取り入れた。文化祭では、飲食団体を増やすことができた。コーヒーカップなどクオリティーの高いクラス展示があり、生徒の満足感を得られた。
③ ボランティア活動の積極的な活動の推進と生徒会活動の活性化	ぶんこ食堂や区民センター、特別支援学校等種々のボランティア活動を行った。生徒会では、区のアウトリーチ型の若間者会議に参加した。この成果をもって足立区から表彰を受けることができた。今後もボランテ	

		<p>ィア本校の特色ある教育活動として継続していく。</p> <p>④ 学校 2020 レガシーとしての国際交流、ボランティア活動、地域交流を通じた異文化理解ボランティアマインドの育成及び共生社会に対する意識の醸成</p>	<p>国際交流では、生徒の海外派遣、フレンドシッププログラム、ポーランド大使の講演等、学校規模で開催し、異文化交流、国際理解教育を推進できた。</p>
募集広報活動	<p>【目標】</p> <p>○教職員全員体制による募集・広報活動による応募倍率の向上応募倍率の向上</p>		
	<p>【方策】</p>		
	<p>① 学校説明会、学校見学会、中学校、塾訪問の工夫と充実</p>	<p>各教員が、中学校3校、塾1校を訪問し募集活動に努めた。また、チラシを配り、地域にポスターを張ることにより、入選倍率を向上することができた。</p>	
	<p>② HP や掲示板の更新による日々の最新情報の発信および学校イメージ向上 PR 活動の実施（ポスター掲示、チラシ配布等の実施）</p>	<p>HP の更新は250回以上と日々の生活を発信することができた。</p>	
<p>③ 都立高校 PR 事業の活用</p>	<p>学校説明会の様子を撮影し投稿するなど、都立高校 PR 事業を活用することができた。</p>		
学校経営組織体制	<p>【目標】</p> <p>○企画調整会議と分掌部会・経営企画室との双方向性の維持と情報共有の徹底</p> <p>○教職員の働き方改革の実現</p> <p>○服務事故防止に関する取組の徹底</p>		
	<p>【方策】</p>		
	<p>① 企画調整会議、各種会議による各組織間の連携強化と情報の共有化</p>	<p>会議以前の情報共有がうまくできていないことが散見された。今後は、各主任からの指示命令系統をさらに整え改善していく。</p>	
	<p>② 着実な予算申請、ヒアリング等による適正な自律予算、補正予算の編成と計画的な執行</p>	<p>予算は、計画的に執行できた。次年度も教育活動に必要な予算を適正に執行していく。</p>	
	<p>③ 体罰禁止、個人情報の徹底管理等、コンプライアンスの周知徹底</p>	<p>年2回、6月と12月に時間を取って校内研修を行った。また、あらゆる機会をとおして服務事故に関する注意喚起や研修を実施した。次年度継続していく。</p>	
<p>④ 効率的な業務の遂行と業務のスリム化による教職員のライフ・ワーク・バランスの実現</p>	<p>指示命令系統の整備や、リアテンドントの活用等ある程度の業務の改善を行うことができた。一部残業の多い教員がおり、産業医面談を実施した。来年度は、支援員の導入や、定時退庁日の設定により、より推進する。</p>		

重点目標の取り組み

重点目標	成果と課題
学習指導	
① 授業規律の確立	授業の開始に服装指導を行う等、継続的に指導している。授業によって授業規律ができていないことがあった。授業準備ができていない生徒もあり、継続して全授業で授業規律を確立していく。
② 土曜日や放課後の補習・講習の施による、基礎学力の定着と学習意欲の醸成	基礎学力が十分身に付いていない生徒を対象に土曜講習は5回実施。放課後補習も実施できた。
生徒指導・健康づくり	
① 学年と生徒保健部との連携による遅刻の減少	遅刻指導は、全教員で指導を行ってきたが、学年差が大きく平均1日25名以内の目標達成はできなかった。家庭との連携を強化、生徒会による挨拶運動等を通して改善を図る。
② 身だしなみ違反者、携帯等のルール違反者を出さない指導の徹底	定期的な指導に加え、日常的に指導を継続しているが、今後も継続した指導を行う必要がある。
③ 学年と自立支援担当、YSW、SC等が連携し、中退防止	YSWやSCと連携して生徒の家庭環境の調整や福祉につなげ、中途退学の防止ができた。また、都立版エリアネットワークを活用して足立特別支援学校と連携し、コミュニケーションアシスト口座の受講につなげた。
④ 問題行動の未然防止及び再発防止	昨年度より特別指導の件数は減少した。SC面談を活用するなど、教員の生徒理解や再発防止を図った。また、状況に応じて臨機応変に対応し、保護者と連携の強化を図った。
⑤ 体力づくり	教科や部活動だけでなく、日常生活でも歩くことや階段を使うなど工夫で体力の向上を図る。
進路指導	
① 生徒の進路希望の実現	進路指導満足度は、83%、進路決定率は96.6%となった。求人票をPDFで読み込み、保護者と生徒が求人票を一緒にみられるシステムにしたことで、第1回就職決定率が90%と高い成果が出させた。次年度も維持できるようにしたい。
特別活動	
① 行事の活性化とボランティア活動の推進	行事では、各実行委員が中心となり、実行委員が達成感を持てる行事ができた。様々な団体と連携したボランティア活動ができ、特別支援学校との交流が2回、文化祭での演劇発表ができた。また、足立区から表彰を受けることができた。
募集広報活動	
① 応募倍率の向上とHPの充実	HPの更新は、265回と前年度より増加した。入学選抜の倍率が、推薦は1.44倍、一般入試では二次試験を含めて定員を満たすことができた。次年度も、HPの更新をこまめに行い、入選の倍率を回復したい。
学校経営組織体制	
① 分掌間、教員と経営企画室、学年と分掌等の意思疎通と情報共有	職員会議前の研修を実施し、生徒理解や情報の共有化を図った。指示命令システムを意識し、組織的な対応ができるようになった。
② 効率的な業務の推進（学校における働き方改革の推進プラン）	在校時間の調査を行い、超勤が続く教員と産業医の面談を実施した。また、来年度に向けて定時退庁日を設定した。

数値目標と学校経営自己評価

項目	目標	結果	標語
授業満足度	90%以上	74.5%	C
遅刻者	1日25名以内	1日47名平均	C
特別指導件数	10件以内	10件	B
教育相談委員会開催回数	10回以上	118回	A
進路指導満足度	90%以上	82.9%	C
進路決定率	95%以上	96.6%	A
進級率	100%	100%	B
部活動加入率	70%	100%	A
ボランティア個人参加者のべ人数	150名	237名	A
学校HP、SNS等の更新回数	300回	265回	C
出前授業	10回以上	0回	D
入選 推薦倍率	2.5倍	1.44倍	C
入選 学力倍率	1.2倍	0.94倍	C

(自己評価の標語 A:十分達成 B:達成 C:やや不十分 D:不十分)

令和7年度 表彰一覧

・東京都教育委員会表彰

表彰基準一 地道な活動を継続的に行い、他の字百々・生徒等の範となる者 東京都教育委員会

・交通事故防止に貢献したことに係る感謝状 警視庁竹の塚警察署長 田村 泰一
竹の塚交通安全協会会長 高橋 忠男

・あだち子どもの未来応援基金に係る感謝状 足立区長 近藤 やよい

・令和七年度自転車カギかけありがとうキャンペーン啓発ポスター制作 最優秀賞 足立区長 近藤 やよい

・善行をたたえる 地域社会における他の青少年の模範となる活躍

足立区青少年問題協議会会長

足立区長 近藤 やよい

足立区教育委員会

足立区青少年対策

竹の塚地区委員会会長 小島 千恵子